

移植後には、妊娠判定が待っています。市販の検査薬で確認する人もいますが、医師にしっかり診てもらおうようにしましょう。妊娠判定は、それが安心できる妊娠かどうか、生化学的妊娠や異所性妊娠（子宮外妊娠）などもあるためしっかりした診断が必要です。

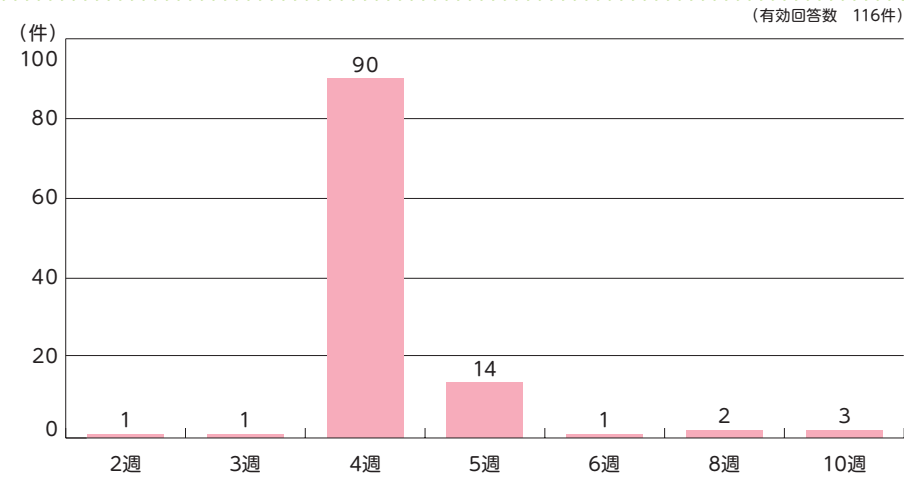
妊娠すると、4週後半に胎嚢確認ができ、6週ごろに赤ちゃんの心拍が確認できるといわれています。そこでまずは判定ができるでしょう。

では、この妊娠判定の目安は各ART施設ごと、どのようにしているのでしょうか？

そして、妊娠が確定した場合、分娩施設への紹介状は書いているのでしょうか？ 患者さん主体で決めているのでしょうか？

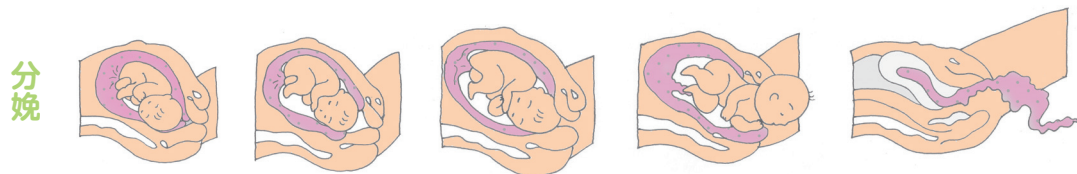
Stage
07-1

妊娠判定の目安について



妊娠判定は、4週、5週にかけて多いことがわかります。4週後半に胎嚢確認ができることから、ほぼそこで判定していることがわかります。

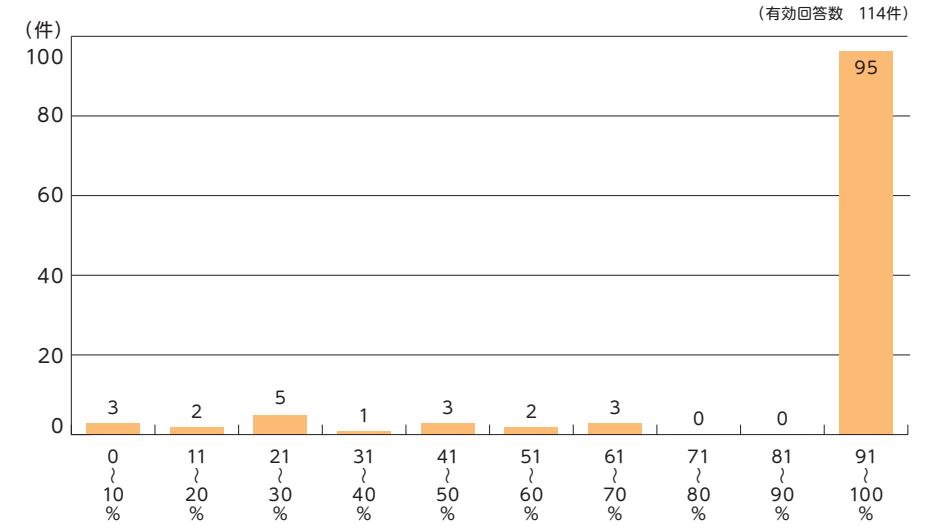
最長では、10週としている施設もあります。



10カ月の間、大事に育った赤ちゃんともうすぐ会えるシグナルが、陣痛です。妊娠後期になると、母体は分娩の準備を始めます。陣痛が等間隔で繰り返すようになり、10分間隔、5分間隔と進んでいきます。病院への連絡で入院を指示されたら、荷物を用意して病院へ行き、手続きをしましょう。そして、診察を受け、子宮口の開き具合などを確認してもらい、出産のための処置を受けます。個人差がありますが、子宮口が全開大になってから出産に至るまでには10～13時間かかると言われています。子宮の収縮が激しくなり、自然にいきみが出てきます。出産までは一般的に初産で1～3時間かかります。赤ちゃんの頭が完全に出てしまえば、あとは体がスルッと出て新しい命の誕生です。待ちに待った抱っこの瞬間です。でも人それぞれに注意が必要なのがお産です。

Stage
07-2

分娩施設への紹介状について



分娩施設への紹介状はほとんどのART施設で書いていることがわかります。どのような不妊治療・体外受精であったかを出産する分娩施設と情報共有できることは、より安全で安心できる出産への準備にもなるでしょう。

無痛分娩

分娩方法の一つを紹介。麻酔によって痛みを軽減させるお産の方法に無痛分娩があります。痛みが和らげぐことで落ち着いた出産ができ、体力の消耗を軽減する利点があります。妊婦さんの分娩の進行状況に合わせて、担当麻酔科医が麻酔薬の調整を行います。分娩が長期化することへの注意などが必要ですが、安全のもとで安心して出産に臨める方法として選択する人も多いようです。



初期

妊娠11週の赤ちゃんは、身長 約8～9cm
体重 約30g
吐き気や嗜好の変化など、つわり症状が本格化してくる。



中期

妊娠27週の赤ちゃんは、身長 約35cm
体重 約1000g
お腹がおへその上まで膨らみ足のむくみや貧血が出やすい。よく動く。



後期

妊娠39週の赤ちゃんは、身長 約50cm
体重 約3000g
胎児が下降することにより、お腹の膨らみが前下方に下がり気味になる。

